

<研究主題> 「『かかわり』と『奇跡の瞬間』」を大切にした学習づくり
～チャレンジし わかりあい みつめ・ひろげる学習集団をめざして～



かかわりよしだ!

1 主題設定の理由

本校では2019年度より、教育活動の基盤である様々な「かかわり」と、個々の成長を見つけて共に喜ぶ瞬間「奇跡の瞬間」を大切に、算数を中心に研究を進めている。この5年間で、仲間と考えることを楽しむ子どもの姿が見られるようになり、算数に関する意識調査でも肯定的に回答する子どもの割合が増えた。しかし学力調査の結果から、全体の正答率は県平均を上回るようになってきたものの、資料を読み、目的に応じて必要な情報を選んだり、情報と情報を結び付けて自分の考えを表現したりすることには課題があることがわかった。

中央教育審議会の答申(令和3年1月)では、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に活かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められている。私たちはこの学びを子どもたちの中に実現するために、一人一人の学びを支える「学習集団づくり」に重点をおくことにした。苦手意識のある課題にも粘り強く解決しようとしたり、自分の考えを見直し改善したりするためには仲間の存在が必然である。そのかかわりを深めることで安心して自分の考えを表現する子どもたちに育つと考える。そして、正答を求めることだけに固執せず、資料の活用等とおして、仲間と考え、表現することを楽しみ、互いの考えをわかりあい、自分たちの学びを生活や学習に活かそうとする学習集団に育てたいと考えた。そのために、子ども同士の仲間づくりと指導者と子ども、指導者同士のかかわりをも大切に、指導者がまず学習を楽しむことを意識して子どもも大人も楽しい学習づくりに努めることで、たくさんの「奇跡の瞬間」に出会う学習を創造していきたい。

2 研究目標(到達目標)

「『かかわり』と『奇跡の瞬間』」を大切にした学習づくりの具体を探ることをとおして、仲間とともに考え、表現することを楽しみ、よりよく学ぼうとする学級集団を育成することをめざす。

3 めざす学習集団 (学習集団の具体的な姿～奇跡の瞬間との出会い～)

主体的・
対話的で
深い学び

めざす
学習
集団

- 自分から複数の情報を集め、めあてに向かい多様な方法で取り組むなど
夢中で活動する学習集団 (チャレンジする)
- 自分の考えを、相手を意識して表現し、正答だけでなく様々な考えを互いにわかりあい、
考え表現することを楽しむ学習集団 (わかりあう)
- 自分の表現を、見直し修正するなど粘り強く学習に取り組み、
学びを生活や学習に活かそうとする学習集団 (みつめ・ひろげる)

支える
一人
一人の
学びを

- 仲間の考えや思いを最後まで聞く学習集団
- 仲間の考えや思いをわかりあうために尋ね合う学習集団
- 仲間を励まし合い、よさを伝え合い、互いに喜び合う学習集団

安心感
居場所



4 研究の視点 ～「奇跡の瞬間」に出会う学習を創造するための「かかわり」ポイント～

<学習における「かかわり」の工夫>

1 教材との「かかわり」を工夫する(資料とのかかわり)

☆ねらいを明確にし、「子どもの思考の流れ」と「自分からかかわる活動」を大切に学習計画をつくる (1時間、単元、他教科等、日常生活とのつながりを意識して)

- ・生活につながることをめざした題材を扱い、自分から情報を集める、選ぶ、伝えるなどの活動を設ける。(資料やICTを活用する)
- ・思考の流れや困り感を大切に、ねらいとつながる「めあて」を子どもと一緒に設定し、解決の見通しがもっているかを見取り、活動のスタートラインを揃える。

2 ひととの「かかわり」を工夫する

☆考える視点を明確にし、子どもの表現と表現をつなぐ学習をつくる

- ・考えるための情報を視覚化(モデルを示す等)、焦点化(考える視点を絞る等)して、考える視点を明確にし、具体物、資料、数学的な表現など、様々な表現を用いて互いの考え(「わけ」を含む)をわかりあう場を設ける。
- ・見方・考え方を働かせながら、選ぶ、見つける、比べる、検討するなどの活動を大切に、仲間の思いや考え(困り感や誤答を含む)を全体でわかりあう場を設け、子どもの表現と表現をつなぐ。

3 自分との「かかわり」を工夫する

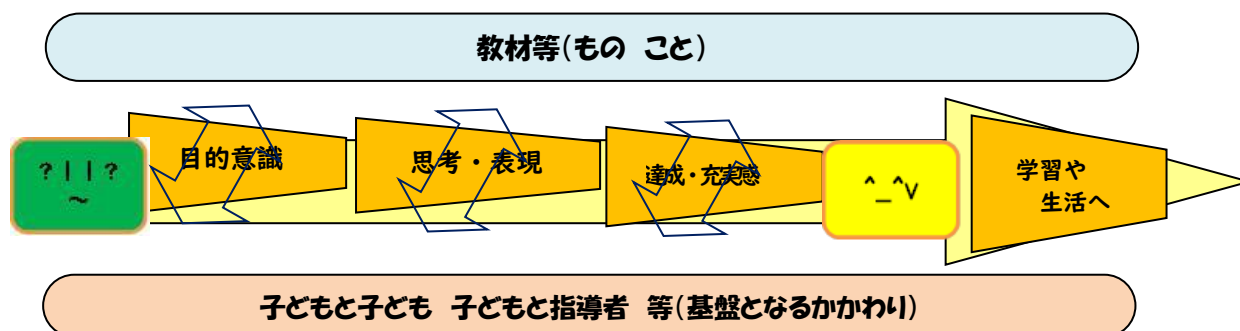
☆修正する場を大切に、学びのよさを子どもと共有する。

- ・自分の表現を見直す活動(赤ペンタイム等)を繰り返し設け、子どもの変容を価値付けるとともに、子どもと共有した学びのあしあとを視覚化し、次の学習等へ生かすようにする
- ・「学習でつけたい力(みんなでつけたい学習パワー)」を視覚化し、子どもが学びを価値付け、学びのよさを味わえるようにする。

<学習の基盤となるかかわり>

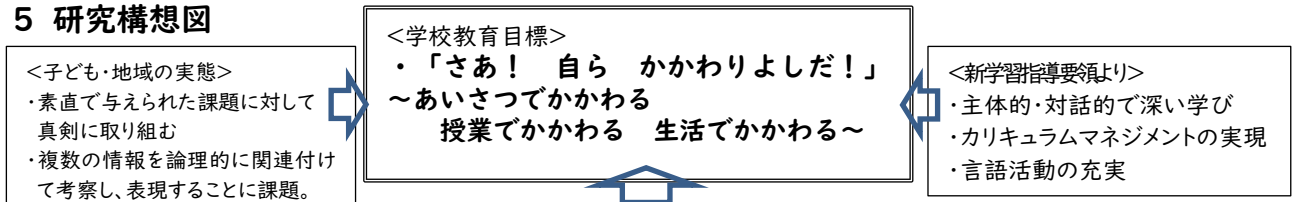
☆学習の基盤となる指導者と子ども、子ども同士の豊かなかかわりをつくる

☆指導者同士がかかわり合い、教科等のおもしろさ、楽しさを実感する



※「かかわり」によって目的意識をもち、思考・表現、達成感へ高めるイメージ図 (⇄ …「かかわり」) さまざまな「かかわり」の中に「奇跡の瞬間」を見付け、子どもと共有することを大切にしてい

5 研究構想図



<研究主題>『かかわり』と『奇跡の瞬間』を大切にした学習づくり

～ チャレンジする わかりあう みつめ・ひろげる学習集団をめざして～



めざす学習集団の姿	学習における具体的な姿（算数科を中心として）
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; font-size: 0.8em;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; margin-bottom: 5px;">チャレンジする</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; margin-bottom: 5px;">わかりあう</div> <div style="writing-mode: vertical-rl;">みつめ・ひろげる</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から複数の情報を集め、めあてに向かい多様な方法で取り組むなど 夢中で活動する学習集団 ・自分の考えを、相手を意識して表現し、正答だけでなく様々な考えを互いにわかりあい、考え表現することを楽しむ学習集団 ・自分の表現を、見直し修正するなど粘り強く学習に取り組み、学びを生活や学習に活かそうとする学習集団 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「問い」、「自分の思いや考え」をもつ ◇自分で選び、決める ・〇〇がわからない。今までは…だけど、今日は…？ ・もし～だったらわかるけど… ・自分からこれまでの学習（掲示物やノート等）を見る ・自分から教科書を見る ・自分から誰かに尋ねる・数字や場面を置き換えてみる ・自分でアイテムを用意する 等 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◇数学的表現（数字、式、図、具体物等）を用いて考えを表す（頭の中を表す） ◇仲間の表現に質問したり、思いを伝えたりしながら、考えをつなげ整理する ・仲間の表現と自分の表現を比べて考えようとする ・比べて考え「同じ」や「違い」「新しい考え」「？」を見付け、伝える ・自分の考えと友達との表現（考え）をつなげる ○〇さんがいいたいことは… 等 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分、仲間、教科等のよさを見付け、生活や学習へ生かそうとしている ・はじめは〇〇だったけど…最後は… ・今度は〇〇してみたい ・自分の考えを変えたい ・〇〇さんと話して〇〇がわかった ・〇〇が使いそう ・もう一度やってみたい ・〇〇のことがよくわかった ・他教科等や生活でやってみたい
<p>支える学習集団の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の考えや思いを最後まで聞く学習集団 ・仲間の考えや思いをわかりあうために尋ね合う学習集団 ・仲間を励まし合い、よさを伝え合い、互いに喜び合う学習集団 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">安心感居場所</div>	

<研究の視点> 「奇跡の瞬間」に出会う学習を創造するための「かかわり」ポイント

<学習におけるかかわり>

1 教材との「かかわり」

- ☆ねらいを明確にし、「子どもの思考の流れ」と「自分からかかわる活動」を大切に学習計画をつくる（1時間、単元、他教科等、日常生活のつながり）
- ・生活につながることをめざした題材を扱い、自分から情報を集める、選ぶ、伝えるなどの活動を設ける。（学校図書館の資料やICTを活用する）
 - ・思考の流れや困り感を大切に、ねらいとつながる「めあて」を子どもと一緒に設定し、解決の見通しがもてているかを見取り、活動のスタートラインを揃える。

2 ひととの「かかわり」

- ☆考える視点を明確にし、子どもの表現と表現をつなぐ学習をつくる
- ・考えるための情報を視覚化（モデルを示す等）、焦点化（考える視点を絞る等）して、考える視点を明確にし、具体物、資料、数学的な表現など、様々な表現を用いて互いの考え（「わけ」を含む）をわかりあう場を設ける。
 - ・見方・考え方を働かせながら、選ぶ、見つける、比べる、検討するなどの活動を大切に、仲間の思いや考え（困り感や誤答を含む）を全体で分かり合う場を設け、子どもの表現と表現をつなぐ。

3 自分との「かかわり」

- ☆修正する場を大切に、学びのよさを子どもと共有する。
- ・自分の表現を見直す活動（赤ペンタイム等）を繰り返し設け、子どもの変容を価値付けるとともに、子どもと共有した学びのあしあとを視覚化し、次の学習等へ生かすようにする
 - ・「学習でつきたい力（みんなでつきたい学習パワー）」を視覚化し、子どもが学びを価値付け、学びのよさを味わえるようにする。

<学習の基盤となるかかわり>

☆指導者と子ども、子どもと子どもの豊かな「かかわり」をつくる

- ①ていねいな「かかわり」とくりかえしの「かかわり」
- ②集団の約束づくりと居場所感をもたせる
- ③子どもが夢中になれるもの、場、時間をつくる


☆指導者同士がかかわり合い、教科等のおもしろさ、楽しさを実感する



- <評価>
- ・子どもの意識調査（校内アンケート）及び学校評価より評価する
 - ・学習でめざす子どもの姿や学習集団の姿を明確にし、評価する
 - ・学習の記録等から発言、つぶやき、子どもの作成物等から評価する
 - ・学力調査から「活用に関する問題」「観点別評価の視点」を評価視点とする

6 学力育成への取組(基礎的・基本的な学力を育てるための取組)

		【課題】 (学力調査結果から)	【対策】全学年で次のことを中心に取り組む		
			授業などで	モジュール枠で	家庭と連携して
国語	低	・条件の中で文章を書くこと ・書いた文章を推敲すること	①国語・算数オリンピック (知識・理解を習得するためのテスト) ②国語辞典の活用 ③情報活用ファイル (学校図書館の活用) ・ファイルにワークシートを綴じ、系統的に情報スキルに関する学習を行う ・思考ツールを用いた学習 ・公開日等で、プレゼン資料を作成し探求的な学びの発表会を行う ④週末の長文プリントの宿題 ⑤調べ学習やプログラミングの学習でタブレットを計画的に活用する	①音読 ・名文を読む ・簡単な説明文や理科社会の教科書を読む ②どんチャレ問題 ・算数の情報過多問題に取り組む	①家庭学習の手引きを配付する。 (各学年の目標時間等家庭へ協力をお願いする) ②家庭学習で長文読解や基礎的計算の学習を毎週末取り組む。 ③学年間等で家庭学習に関する内容、実態等の情報交換を定期的に行う。
	中	・長文を読み、条件付きの作文をかくこと ・説明文の読み			
	高	・長文の読み、目的や意図に応じて、様々な条件で説明をかくこと			
算数	低	・問題場面を絵や図で表すこと ・文章題の立式	⑤調べ学習やプログラミングの学習でタブレットを計画的に活用する	②どんチャレ問題 ・算数の情報過多問題に取り組む	③学年間等で家庭学習に関する内容、実態等の情報交換を定期的に行う。
	中	・長い文章や複数の情報から必要な情報を選び問題を解くこと			
	高	・複数の情報を関連付け、論理的に考え問題を解くこと			

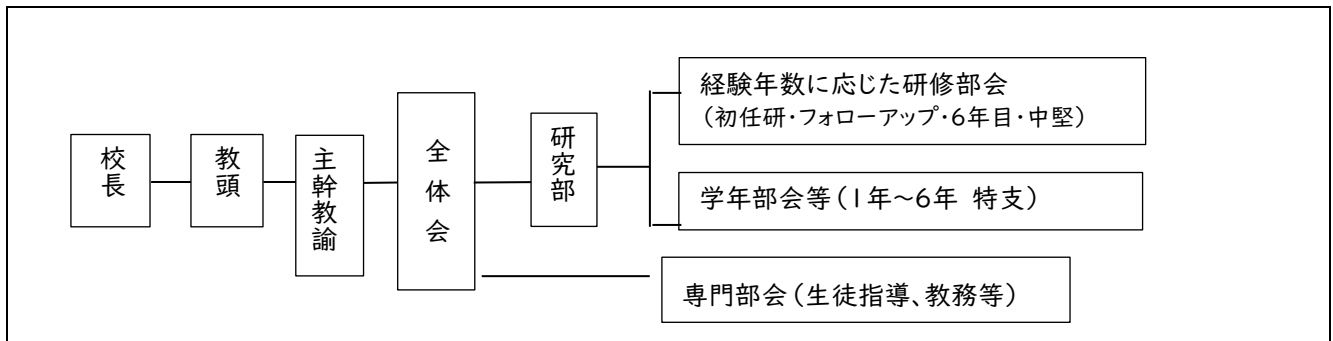


情報活用能力の育成・言語活動の充実を図る

基盤となる学級・学習集団づくり(子どもと子ども、子どもと指導者のかかわり)

- ・人を大切にしたい温かい「かかわり」をとおして、自己肯定感を育む
- ・活気ある集団の「かかわり」をとおして、互いのよさを認められる人間関係を育む

7 研究組織



8 研究の手順

- (1) 研究の進め方や内容について共通理解を図る
- (2) 子ども及び指導者の意識調査(実践前後2回実施する)
- (3) 重点単元に向けての計画・教材分析等
- (4) 指導主事等講師を招いての体験研修等
- (5) 各学年部の授業実践、研究協議
- (6) 学力調査結果の分析
- (7) 本年度のまとめと次年度の計画

9 年間計画予定表 (★…保幼小連携 小中連携にかかわること)

学期	月	研修内容	備考
前期	4	・研究計画の作成 ・カリキュラムマネジメントの視点から 年間計画等の見直し ・特別支援教育研修	
	5 7	・研究内容等のめざす姿の共通理解 ・児童理解研修 ・ICT研修 ・子ども意識調査(1回目) ・支援部、1年部 3年部授業研究 ・市教委学校訪問	★保幼小から訪問 ・6年目研修 ★小中連絡会(小→中へ)
	8 10	・校内研修会 (学力育成研修 アセス研修) ・授業づくり研修会(後期重点授業の検討会) ・情報過多問題の作成 ・支援部授業研究 ・6年部授業研究 ・3年部授業研究	★保幼小園へ訪問 ・特新担(フォローアップ2年目)、6年目研修 ・6年目研修
後期	10 12	・2年部授業研究 ・4年部授業研究 ・5年部授業研究 ・4年部授業研究 ・1年部授業研究 ・5年部授業研究 ・全国学力・学習状況調査結果分析等研修 ・子ども意識調査(2回目)	・フォローアップ3年目 ・初任者研修 ・フォローアップ2年目 ・中堅研修 ・初任者研修 ・6年目研修 ・全国学力調査問題から ★保幼小交流(秋見つけおもちゃづくり)
	1 3	・2年授業研究 ・4年授業研究 ・学力調査の分析 ・課題研究レポート発表会 ・今年度のまとめと来年度の方向性を決める	・初任者研修 ★保幼小交流(昔遊び) ★保幼小園へ訪問 ・経験者研修 ★小中連絡会(中→小へ)

10 研究成果の検証方法

- (1) 子どもの意識調査(校内算数アンケート)及び学校評価より評価する。
- (2) 学習でめざす子どもの姿や学習集団の姿を明確にし、指導者の見取りにより評価する。
- (3) 学習の記録等から発言、つぶやき、子どもの作成物(ワークシート)等より評価する。
- (4) 学力調査等の結果(算数、情報にかかわる項目、資料の活用に関わる項目等)から評価する。

R6 学習の流れのイメージ (1時間の例) 吉田小



指導者の
大事
ポイント

みんなで 学習を つくろう

「はてな(?)」を
つたえよう!

「はっけん!」や「なるほど」
をつたえよう!

?!?!?
はてなさん

^_^v
にっこりさん

めあて

考えを表そう
チャレンジ!

考えを比べよう
見つけよう!

みんなで考えを
わかりあおう!

ふりかえり

え ず ひょう
絵 図 しき 表
もの ことば を
つかって つなげて

- ・なっとくするまで
比べて たずねて 見つける
- ・同じ ちがうこと
新しく考えたこと
考えがかわったこと
いろいろ たくさん見つける

- ・仲間の「?」を考えよう
- ・いろいろな考えを出そう
- ・いろいろな考えを
わかりあおう
- ・みんなの考えをつなげよう
- ・ネーミングしよう

- ・めあてとつなげて
- ・前とくらべて
- ・算数のことばをつかって
- ・先の学習や生活とつなげて

★スタートラインをそろえる
・どの子どもも活動の見通しやゴールのイメージがもてるように
・モデルを示す

★丁寧な見取り価値付け
・一人一人の考えや思いを把握する

★考える視点を具体化
・選ぶ
・見付ける
・問いかける
・共感する

★考える視点を焦点化
・わけを問う
・考えを変えた子どもの気持ちを問う
・子どもの言葉でまとめる

★めあて、評価の観点と関連付けて
・評価方法は観点や実態に合わせて

友だち・指導者・教材・教具・資料等、様々な「かかわり」をとおして

か
か
わ
り
よ
し
だ

お話
タイム

みんな
で
タイム

赤
ペン
タイム

赤
ペン
タイム

☆楽しいね☆

学習の流れを子どもと共有

子どもと一緒につくる算数の学習

～チャレンジする わかりあう みつめ・ひろげる学習集団をめざして～



期待する子どもの具体的な姿（例）

◇「問い（?）」 「自分の考えや思い」をもち、表す

◇自分で選ぶ、決める

- ・「?」をノートにかく（わからなさを、言葉、記号、マークなどで表現する）
- ・どうして〇〇かな？
- ・今までは…だけど、△△だからわからないな？
- ・もし～だったらわかるけど…
- ・〇〇の意味がわからないなあ…
（言葉、数字、等を示しながら）等
- ・仲間や指導者に尋ねる ・自分から教科書やノートを見る
- ・数字や場面を置き換えてみる ・自分でアイテムを用意する

「わからなさ?」(問い)
からスタート!
スタートラインを描える

◇数学的表現（数字、式、図、具体物）を用いて考えを表す(頭の中を表す)

◇仲間の表現に質問したり、思いを伝えたりしながら、考えをつなげ整理する

（子どもが子どもに質問する）（同じ考えでも、子どもの考えをきいてみよう!）

- ・途中までやってみたけど… ・〇〇でわからなくなりました
- ・どうして〇〇になったのですか？
- ・なるほど…! ああ! 伝わりました
（形式的な「いいです!」を求めないように…）
- ・〇〇さんの考えをきいていたら考えが変わった!
- ・〇〇さんのいいたいことは…こういうこと？
- ・「同じ」「ちがう」を見つけた!
- ・もし〇〇だったら…たとえば…こういうことかな
- ・だったら…〇〇は…

※算数言葉やアイテム（数字、式、図、具体物、グラフ等）を用いて伝える

※算数的表現を（数字、式、図等）をつなげる

夢中で活動

子どもの
表現と表現を
つなげよう!

◇自分 仲間 算数のよさを見つけ、生活や学習へ生かそうとしている

- ・はじめは〇〇だったけど…最後は…
- ・〇〇さんの考えがよくわかったのでやってみたいです
- ・今度は〇〇がしてみたいです
- ・ほかの数字等でやってみたいです
- ・もし〇〇だったらどうなるかやってみたいです
- ・ほかの場面（他教科等や生活等）でつかってみたいですよ

※算数の言葉をつかってふりかえりをしよう

子どもの言葉を
生かして次へ
つなげよう

